

■ 編集だより

編集後記

お盆休みにゴルフに出かけましたが、ゲリラ豪雨に遭遇し途中で中止せざるを得なくなりました。それにしても最近の天候の不順なこと、異常気象としか言い表せない状態です。同じ日に京都御苑の南側の道路も冠水していました。1時間に90mmの豪雨が降ったとのことでした。京都や大阪は非常に天災の少ない土地柄です。特に都の中心部が冠水するとは考えられませんが、最近はそうでもないようです。時間雨量50mm以上の雨の回数は1.5倍に増えており、時間雨量80mm以上の回数に至っては、約2倍になっているそうです。原因ははっきりとはしていませんが、地球温暖化と関係がありそうです。この文章を書いているときにも、広島市内で極めて限定的な地域に記録的な降水による大規模は地滑りが起き40名近い人たちが亡くなられたとの報道に接しました。衷心より哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。環境の変化もさることながら、人々の心にも様々な変化が表れているようです。世界的なナショナリズムの高揚は由々しき問題です。ウクライナとロシアの対立、中国とベトナムやフィリピンとの南シナ海の島々をめぐる領土問題、わが国と中国、韓国との領土問題も解決の糸口が見つからない状態です。ロシアとの問題もまたわかりです。各国の指導者は自国民のナショナリズムを無視して妥協することができないジレンマに陥っているようです。イスラム圏ではもっと凄惨な状態です。イラクやシリア国内は内戦状態で自国民同志が戦い多くの死者を出しているようです。イスラム国という新たな国家を建設する超過激集団も生まれているそうです。欧米の若者が多数イスラム教に改宗して参加しているようです。アフガニスタンを中心に勢力を保持しているアルカイダより過激な集団だそうです。イスラエルとパレスチナの問題も悲惨な状態です。血で血を洗う、憎しみが新たな憎しみを生み出す終わりのない地獄絵です。宗教間の対立と貧困がこのような状況を生み出しているようです。さらにそれを助長するものにインターネットなどの情報革命があるように思います。IT革命は世界中を情報や映像で結びつけ飛躍的に利便性を高めたのは事実ですが、果して人々を幸せにしているのでしょうか、どうも人々の嫉妬や怒りを引き出す場合が多く、「No」と答えざるを得ないのではないのでしょうか。20世紀は2つの大きな世界大戦を経験しましたが、21世紀は規模は小さいですが、国家間あるいは宗教間の根深い対立に起因する戦いが増えているようです。決して平和な世紀にはなりそうにありません。当然のことながら女性や子どもが甚大は肉体的・精神的被害を受けています。特に精神的なものは計りしれません。

そんな中に日本人がイスラム国の捕虜になったという報道が飛び込んできました。「はあ、それはどういうこと？」というのが大多数の日本人の最初の印象ではないでしょうか。あまりにも軽率な・幼稚な行動と言わざるを得ません。日本ほど物質的に豊かな国はないと思います。しかし少数とはいえ心の闇を抱え、破壊的な行動に加わる者達がいることも事実なのです。

大阪弁に「ぼちぼち」という言葉があります。「商売どうですか?」「ぼちぼちでんな」という会話がかつての大阪の商売人の会話でした。「ぼちぼち」とは程々に時間や量などが適度な頃合いになろうとするときに使われる言葉です。もう1つ京都弁に「ほんなり」という言葉があります。「ぼちぼち」とは意味が異なりますが、地味な華やかさがあり、気取りがなく気品を漂わせるさまを意味する言葉です。日本食が世界中でブームですが、日本語の持つ独特の味わいをまずは日本人がもっと味わい、さらに世界に発信できればどんなに素晴らしいことでしょうか。

木下利彦